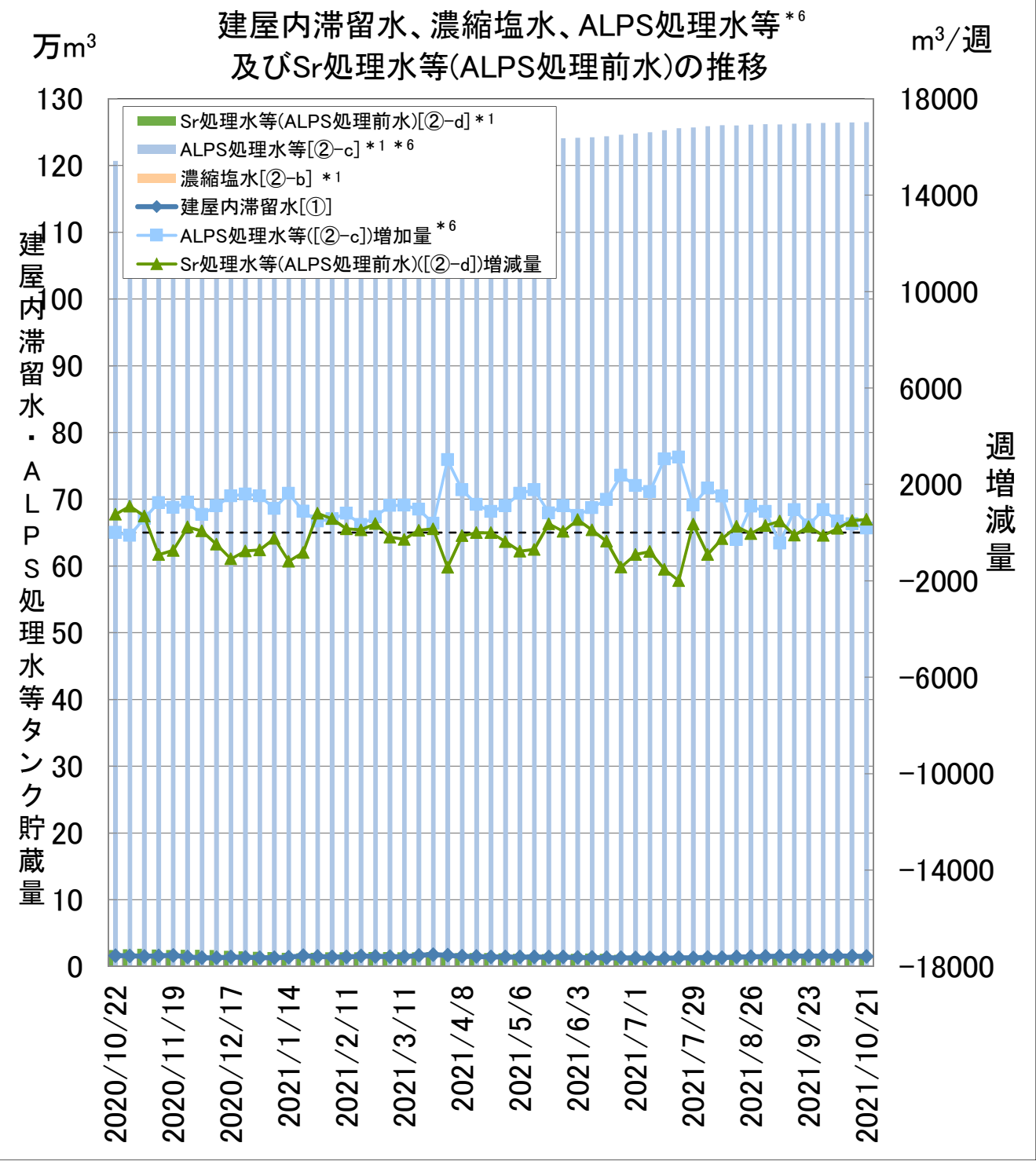
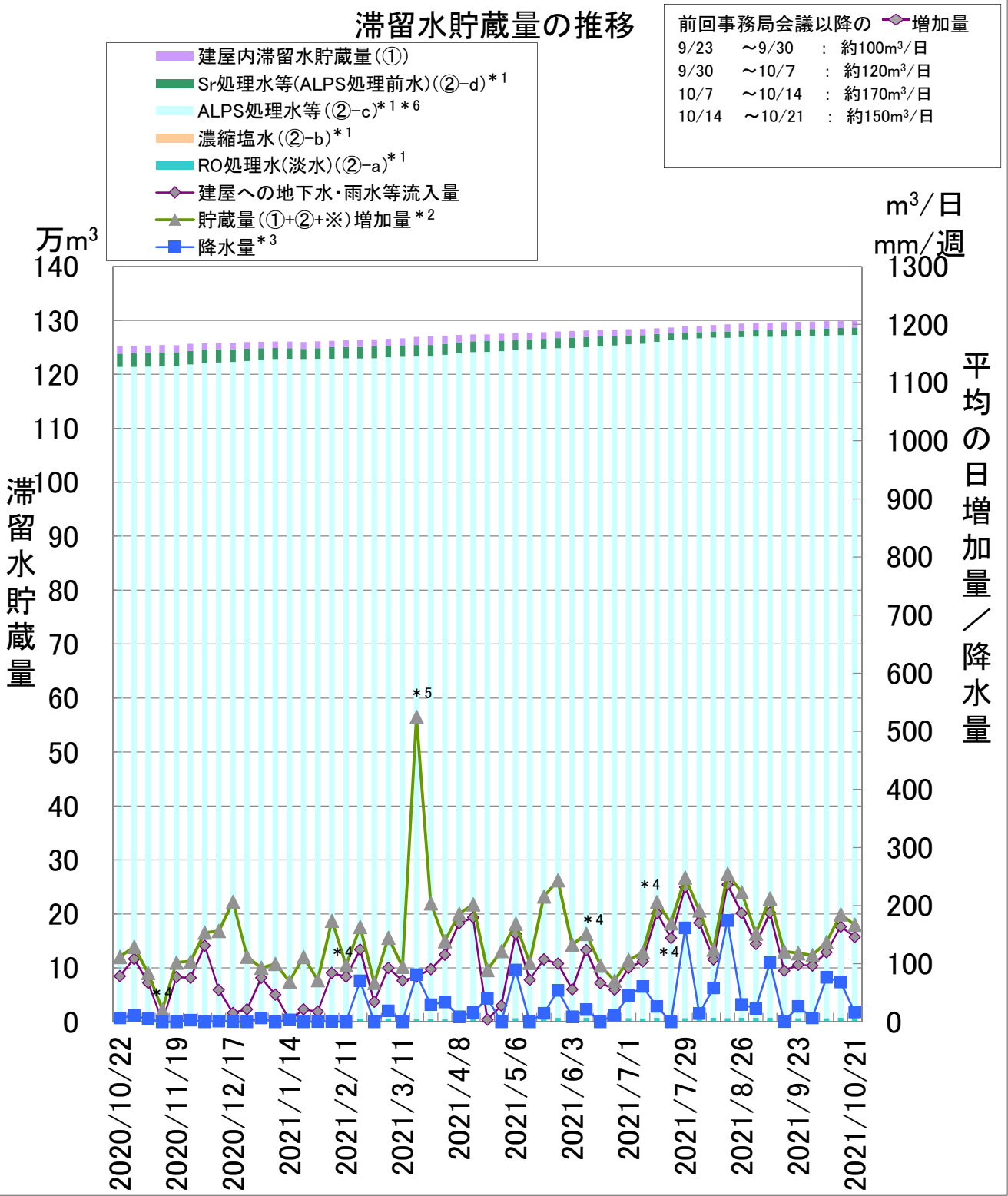


滞留水の貯蔵状況の推移



①: 建屋内滞留水貯蔵量(1～4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(B))
②: 1～4号機タンク貯蔵量〔〔②-aRO処理水(淡水)〕+〔②-b濃縮塩水〕+〔②-cALPS処理水等^{*6}〕+〔②-dSr処理水等(ALPS処理前水)〕〕

※: タンク底部から水位計0%までの水量(DS)

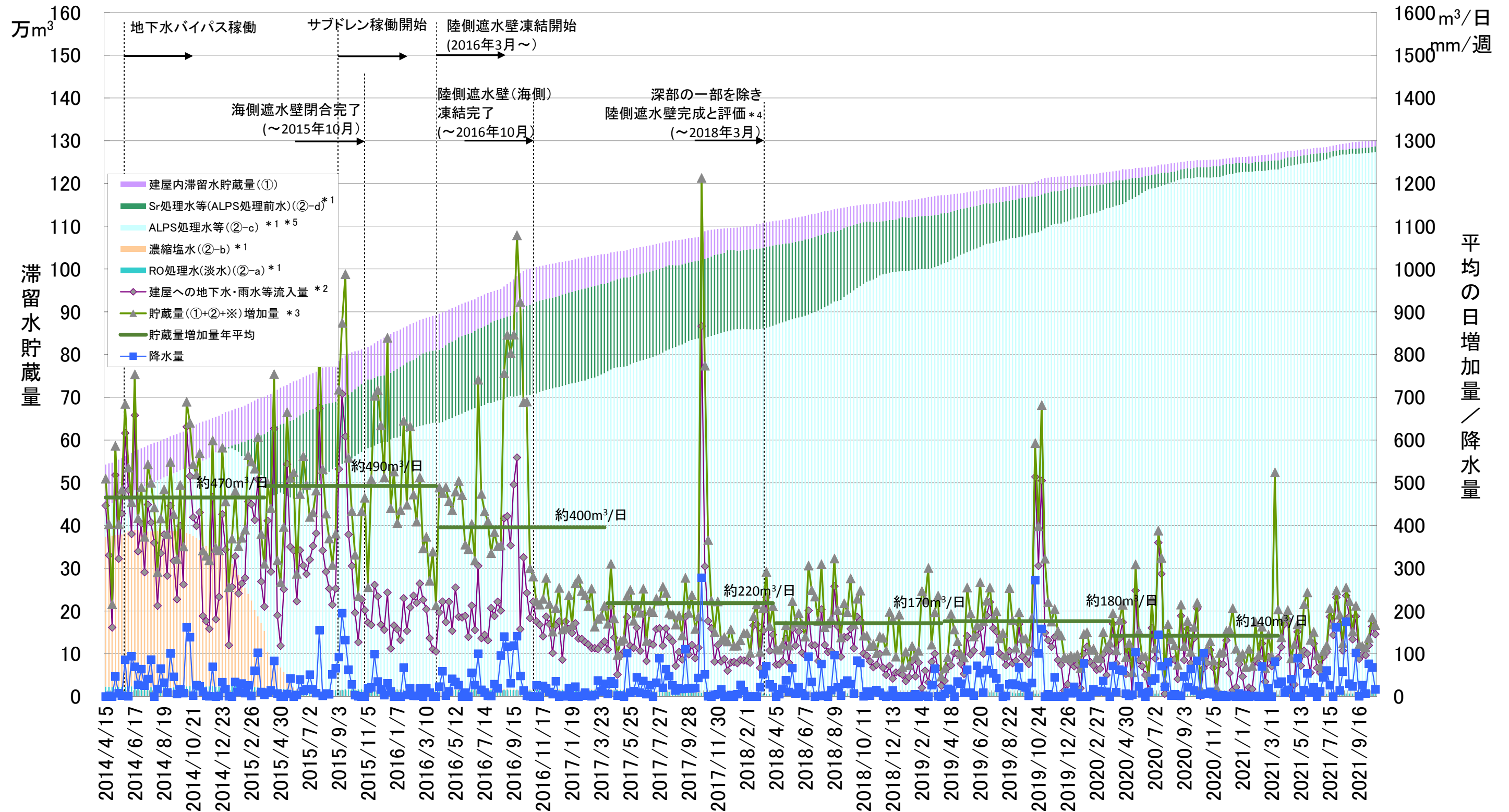
*1: 水位計0%以上の水量
*2: 貯蔵量増加量の精度向上として、2017/2/9より算出方法を以下の通り見直し。(2018/3/1見直し実施)
〔(建屋への地下水・雨水等流入量)+(その他移送量)+(ALPS薬液注入量)〕
*3: 2018/12/13より浪江地点の降水量から1F構内の降水量に変更。
*4: 建屋内滞留水の水位低下の影響で、評価上、建屋への地下水・雨水等流入量が一時的に変動したものと推定。(2020/11/12～19,2021/2/4～2/11,6/3～6/10,7/8～7/22)
*5: 2021/3/18廃炉作業に伴う建屋への移送により貯蔵量が増加。
(移送量の主な内訳は①タンク堰内の滞留水(物揚場排水路から移送した水)をプロセス主建屋へ移送:約390m³/日、②タンク堰内の滞留水(物揚場排水路から移送した水)を高温焼却建屋へ移送:約10m³/日、③3号増設FSTRから3号廃棄物処理建屋へ移送:10m³/日、他)
*6: 多核種除去設備等の処理水の表記について、国のALPS処理水の定義変更に伴い、表記を見直し(2021/4/27)

多核種除去設備等の稼働状況

設備	期間処理水 ^{注1,4)}		定格処理量
	[m ³ /週] ^{注2)}	[m ³ /4週]	[m ³ /日]
既設多核種除去設備	8	57	750以上
増設多核種除去設備	541	2,743	750以上
高性能多核種除去設備	1	1	500以上
高性能 検証試験装置	0	0	50
合計	550	2,801	

注1) 処理量は全て出口積算流量計から算出しており、薬液注入量を含む。
注2) 処理量の内訳はRO濃縮塩水処理量0m³、Sr処理水処理量522m³、処理水処理量0m³、薬液注入量他28m³注3)。
注3) 処理水を用いて粉体を溶かし生成している薬液量(13m³)を含む。
注4) 処理水増加量を基にした算出方法から、設備の出口積算流量計を基にした算出方法に、2020年11月26日より見直し。

滞留水の貯蔵状況の推移(長期グラフ)



①: 建屋内滞留水貯蔵量(1～4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(B))

②: 1～4号機タンク貯蔵量

*5

$$([②-a \text{ RO処理水(淡水)}] + [②-b \text{ 濃縮塩水}] + [②-c \text{ ALPS処理水等}] + [②-d \text{ Sr処理水等(ALPS処理前水)}])$$

※: タンク底部から水位計0%までの水量(DS)

*1: 水位計0%以上の水量

*2: 貯蔵量増加量の精度向上として、2017/2/9より算出方法を以下の通り見直し。(2018/3/1見直し実施)

$$[(\text{建屋への地下水・雨水等流入量}) + (\text{その他移送量}) + (\text{ALPS薬液注入量})]$$

*3: 2018/12/6まで浪江地点の降水量を使用していたが、2018/12/13より1F構内の降水量に変更

*4: 深部未凍結箇所3箇所については、2018年9月までに凍結完了

*5: 多核種除去設備等の処理水の表記について、国のALPS処理水の定義変更に伴い、表記を見直し(2021/4/27)